

第2章 調査結果の要約

1 定住性

(1) 「普段の買い物が便利である」と感じている人は7割台半ば

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈子育て環境が整っている〉〈普段の買い物が便利である〉〈快適で安全なまちである〉の4項目で、肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が半数を超えて多く、高い評価となっている。

また、居住地域の状況について経年変化で聴取した設問では、〈ペットのふん〉と〈ゴミやタバコのポイ捨て〉で【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が半数前後を占めているが、〈ペットのふん〉では、【減っている】が前回の平成30年調査に比べて3.2ポイント減少している。

一方、居住地域の評価のうち、前回までの〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉から、今回〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉に表現をかえた項目の評価は、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が、7割弱と多くなっており、引き続き、区民の交通マナー意識の向上が求められる。また、全体では肯定的評価がほぼ7割を占めた〈通勤や通学などの交通の便がよい〉を地域別にみると、第1地域と第6地域の両地域で9割弱と高い一方で、第8地域、第10地域、第14地域の計3地域では肯定的評価が5割以下にとどまり、地域差が顕著になっている。

(2) 「暮らしやすい」は3年連続で8割強

地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は、全体で8割強と例年と同様の高い水準となっているが、これを地域別にみると、第2地域では6割台と低くなっている。

【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）と回答した人に、特に暮らしにくいと感じることを聴いた結果は、「交通の便の悪いこと」が4割台半ばで最も高く、これに「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割弱で続き、これまでの例年と同様に、上位となっている。

(3) 定住意向がある人は、前回と同じく8割弱

【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）は8割弱と、例年と同様の高い水準を示しており、地域別にみても、全15地域で7割以上となっている。

居住地域の利便性や快適性、美化意識の向上は肯定的にとらえられ、全体としての暮らしやすさへの評価や定住意向は、高い水準を維持している。しかしながら、一部の地域では〈交通の便の悪さ〉が強く感じられており、それが暮らしやすさへの評価が低い水準にとどまっている要因のひとつと推察される。

(4) 今後の課題

今後は、これらの地域差の解消を図るとともに、住民のマナー意識の啓発など、各種の取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価をさらに向上させることによって、区民の定住意向をより強めていくことが必要となろう。

2 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約8年半が経過した令和元年調査時における、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

(1) 家庭備蓄をしている人は3人に2人の割合

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は66.4%と、平成30年調査結果（67.1%）とほぼ同レベルの数値となっているものの、震災半年後の平成23年調査結果（73.6%）に比べて低い水準にとどまっている。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への意識が低い状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容として、「水」が9割弱、「食料」が8割

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割弱から9割弱と高くなっているのに対して、「医薬品」は4割強、「簡易トイレ」や「救急セット」などは2割台にとどまっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が「水」で4割強、「食料」で5割弱と多くなっているのに対し、「1週間分以上」は「水」が1割強、「食料」が1割弱にとどまっている。

この結果は、例年の調査結果とほぼ同様であり、今後も、医薬品やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の水や食料の確保について、「考えていない」という人がほぼ4割を占めている。また、今回からの新設選択肢である「避難所でもらう」（21.5%）が「通常どおりスーパーなどで購入する」（21.1%）と並んで2割強みられる。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への危機意識が低下しつつある様子が引き続き窺えるため、日頃から災害への備えをしてもらうよう、今後も継続的に啓発していくことが重要である。

(3) 転倒・落下・移動防止対策をしている家具類は少ない・対策を行っていないが7割

家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は26.7%と、前回（28.0%）とほぼ同様となっており、平成25年以降7年間に亘って3割弱のまま推移している。

また、全体の7割を占める【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人たちのその理由としては、例年同様「面倒である」が3割弱と最も高くなっており、引き続き家具類の転倒・落下・移動の危険性を区民に啓発していく必要がある。

(4) 地域の避難場所を知っている人は前回同様5割台半ば

今回の調査でも、地域の避難場所の認知状況を聴取しているが、前回同様、「知っている」は5割台半ばで、「なんとなく見当がつく」が3割強、「知らない」が1割強となっていることから、引き続き、「あだち防災マップ&ガイド」や「あだち広報」、スマートフォン対応アプリ「足立区防災ナビ」等のさまざまな情報媒体を活用して、区民の避難場所の認知度をさらに向上させていく必要がある。

(5) 大地震の際の防災対策で区に力を入れてほしいこととして、「衛生対策の充実」「水・食料の備蓄対策」「ライフライン確保」が6割前後で上位

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の3項目が、いずれも6割弱から6割強に達し、上位3位を占めるという回答傾向に今回も変化はみられず、今後もこれらの分野への取り組みを推進する必要がある。

(6) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が3年続けて5割台半ば

区民の半数以上が、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として「避難所」を想定していることを踏まえて、避難所における良好な生活環境の確保に力を入れていくことも重要である。

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがある人は8割弱で、4年続けて確実に上昇

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「見て、自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが、内容までは覚えていない」）は今回78.6%と、前回の68.8%より9.8ポイントも増加して、初めて聴取した平成27年の52.8%以降、各年順調に伸びている。しかし、「そのような地図は見たことがない」という人もまだ2割近くみられ、今後も、このマップの存在を広く区民に周知して、起こり得る水害を理解してもらうことが重要である。

(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「区から避難勧告・指示が発令されたとき」に避難をする人が8割弱で最も多い

河川がはん濫し、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の対処について、「避難する」の割合が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が77.9%と最も高く、以下〈近所の人から避難をしているのを見たとき〉で55.7%、〈自宅付近が浸水したとき〉で52.4%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で33.6%、〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉で22.4%の順で続いている。各項目について「避難する」と回答した人の割合を、前回の平成30年調査の結果と比較すると、各項目ともに±2.0ポイント未満の増減にとどまり、ほとんど変化はみられない。

(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先として、「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がそれぞれ2割台半ば

荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されるが、その場合の最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が26.7%、「自宅の高層階（3階以上）」が25.1%と、それぞれ2割台後半で上位となっており、平成27年以降の各年の調査結果と比べても大きな変化はみられない。一方で、「区外の親戚や知人の家」や「区外の浸水しない高台など」に避難すると答えた人はともに3%未満と少ない。

(4) 今後の課題

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度と内容理解の一層の向上を図るとともに、荒川の大規模水害から命を守るための広域避難など、洪水が迫っている場合に区民が適切に対処できるよう、幅広い支援を行っていくことが課題である。

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が7割強で変わらず首位

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が今回71.1%と、平成25年の調査結果(79.7%)からはやや漸減傾向にあるものの、依然として高い水準を維持してトップにある。一方、今回次点の「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」の比率は、平成25年の24.2%から年々上昇して今回は33.4%と、「ときめき」(31.9%)や「町会・自治会の掲示板・回覧板」(30.4%)を上回る結果となっている。性・年代別にみると、「あだち広報」および「ときめき」や「町会・自治会の掲示板・回覧板」の紙媒体は、男女ともに60代以上の高齢層で高くなっているのに対して、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」は、男女ともに30代と40代で多く利用されている。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」や「ときめき」「町会・自治会の掲示板・回覧板」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な情報を発信していくことが必要である。

(2) 必要とする区の情報として、「健康と福祉」と「災害や気象」が6割前後で上位

区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(62.5%)と「災害や気象に関する情報」(59.8%)が6割前後で上位2項目となっており、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が50.9%で続き、概ね例年と同様な結果となっている。この結果を性・年代別にみると、「災害や気象に関する情報」が女性の40代から60代の中高年3年代層でともに7割前後に達して高く、「出産や育児、就学に関する情報」が男女ともに30代で5割台半ばと高くなっている。

(3) 必要な時に必要とする区の情報「得られている」が前回同様7割強

こうした情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)は、今回71.9%で、経年比較でみると、平成25年の60.5%から10ポイント以上増加している。一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は、平成25年の17.3%から、今回11.7%と漸減する傾向にあり、これらの結果から、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいる様子が窺える。

しかしながら、依然として区民の1割強は、必要なときに区の情報【得られない】と答えしており、その主な理由としては、「情報が探しにくい」と「情報の探し方がわからない」の2項目がそれぞれ3割前後で多くなっている。

(4) 今後の課題

今後も、区からの情報が必要な時に【得られている】という層を増やし、【得られない】という層を減らしていくためには、多角的かつ効果的に行政情報を届けることが求められる。

なお、「区の情報に関心が無い」と答えた人も少数(4.1%)ながら存在するため、このような区民にどのように関心をもってもらえるかも今後の課題となろう。

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズを「知っている」は4割弱

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が11.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.7%)を合わせた【知っている】は38.0%で、「知らない(初めて聞いた)」が59.2%となっている。経年でみると、今回の【知っている】(38.0%)は、平成28年調査の30.6%からは7.4ポイント増加しており、健康な生活を送るうえでの野菜摂取の重要性についての認識は区民の間に徐々に浸透してきている様子が窺える。

しかしながら、性・年代別にみると、【知っている】は、女性の30代と40代及び70歳以上ではそれぞれ5割前後と高い一方で、男性の20代から50代の若中年層および女性の20代では1割台半ばから3割未満と低くなっている。このように、区民の認知度には性別、年代による差があることから、区のキャッチフレーズの周知活動を一層推進していくことが重要である。

(2) 糖尿病の進行による病気や障がいと思うものとして、「失明」と「足の壊疽」が6割台半ばで上位

糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいだと思うものについては、ここ数年の回答傾向と同様に、今回も「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」「人工透析」などが高くなっているものの、「神経障がい(手足のしびれ)」や「網膜症」のような《重篤な合併症の兆候》を示すものについては、依然として3割前後にとどまっている。

(3) 野菜から「食べている」人は7割弱

糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われていたのに対し、「(野菜から)食べている」という人は67.2%を占めているが、経年でみると平成28年の64.7%からほぼ横ばい状態となっている。

また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされているが、実際に【できている】(「できている」+「だいたいできている」)は、今回42.4%で前回より2.7ポイント増加しているものの、平成25年以降各年4割前後と大きな変化はみられない。

今後も、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについて、継続して区民の理解を深めていくとともに、あらゆる性別、年代の区民に対し、糖尿病予防における野菜摂取の重要性を一層周知していくことが重要である。

(4) 自分は「健康である」と自認している人は3人に2人の割合

今回の令和元年調査より4段階評定で聴取した「自身の健康状態」の結果をみると、「健康な方だと思う」(62.1%)が6割強を占めて多く、これに「非常に健康だと思う」(4.2%)を合わせた【健康である】が66.4%と6割台半ばを占めている。一方、【健康でない】(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)と感じている人は、31.6%と3割を超えており、性・年代別では、男性30代が4割を超えるのを筆頭に、全年代で男性の方が女性より高い。

また、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、平成25年以降、「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ばで高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

なお、平成25年から30年まで経過的にみると、喫煙率が減少し、運動習慣がない人の割合も減少、一方、主観的な健康観は上昇し、健診受診率は高まっている。あだちベジタベライフの取組みが、こうした生活習慣等に良い影響を与えていると思われる。

(5) がん検診制度の感想として、「忙しくて、平日は受けられない」が2割台半ばで最多も、感想は多岐にわたる

区民のがん検診についての意識をみると、「忙しくて、平日は受けられない」が23.7%、「自分が対象かどうかわからない」が18.1%、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」が17.5%で例年同様上位となっており、区のがん検診を実施する上で、さまざまな課題があることがわかる。今後も引き続き、区民のがん検診を受けやすい環境を整備し、受診率の向上を図っていくことが重要である。

(6) 「ゲートキーパー」という言葉を「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ば

令和元年調査から聴取した「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が2.5%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が11.6%で、これらを合わせた【知っている】は14.1%にとどまり、「知らない（初めて聞いた）」（83.5%）が8割以上を占めて多い。

6 スポーツ

(1) 日常的に運動・スポーツは「していない」という人が4割強

日常的な運動・スポーツの実施状況を見ると、「30分以上の運動を週2回以上」(18.0%)が2割弱で、以下「年に数回(時間は問わない)」までを含めた【運動している】(56.2%)は5割台半ばに達するものの、「運動・スポーツはしていない」(42.1%)も4割強を占めており、ほぼ前回までと同じような回答分布となっている。性・年代別にみると、「30分以上の運動を週2回以上」している人は、男女ともに60代と70歳以上の高齢計4層で、それぞれ2割台とやや高くなっている。

(2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が4割台半ばで突出

【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果は、「ウォーキング」が46.2%で最も高く、続いて「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(21.9%)と「筋力トレーニング」(20.8%)が2割強で並んで上位となっている。

この結果を、性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の60代と70歳以上でともに6割台後半と高く、「健康体操」は女性の20代で4割弱と最も高いものの、50代以上の女性高齢3年代層もそれぞれ3割前後で続き、「筋力トレーニング」は男性の20代と30代でともに約5割と高くなっている。また、運動・スポーツの実施場所については、「自宅周辺」(41.7%)と「自宅」(28.5%)が上位となっている。

これらの結果から、男女ともに高齢層を中核に、若年層も加わって、継続的かつ定期的な運動の重要性がより強く認識されるようになり、自宅を含む周辺地域で気軽にできる運動が好まれる傾向にあると推察される。

(3) 障がい者スポーツへの意識・行動として、「観戦してみたい」が2割強

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年後に近づき、パラリンピックが注目されている中で、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果は、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい(テレビやインターネットでの観戦を含む)」と回答した人が22.4%で最も高いものの、「特にない」(48.6%)と「わからない」(18.7%)もそれぞれ多い。

また、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果では、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」(8.3%)と「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.2%)が上位にあがるものの、いずれの項目も少数にとどまり、「特にない」が61.0%と6割を超えて多く、「わからない」(18.3%)も2割弱となっている。

(4) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があることとして、「交通網・交通インフラの整備」が2割強で最多も、「特にない」が4割弱に達する

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があることでは、「交通網・交通インフラの整備」が23.0%で最も高く、以下「会場外での観戦(パブリックビューイングなど)」(13.6%)「会場での応援活動」(12.3%)の順で続いている。一方、「特にない」は38.3%となっている。

(5) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動について、始めたい活動がある人は1割台半ばみられるも、「ない」人が7割台半ばと多数

オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無について、「ある」と回答した人は、前回より3.0ポイント減の16.2%と1割台半ばで、「今までの活動を継続」と回答した人は前回とほぼ同じ5.7%となっている。一方、新たに始めたい活動は「ない」と回答した人が、前回より3.5ポイント増の74.3%で7割台半ばを占めている。性・年代別にみると、「ある」との回答は、男性では40代で2割強、女性では3割強の20代を筆頭に、40代と50代もそれぞれ3割弱と高くなっており、女性の若年層と男女の中年層で活動への意欲が高まっている様子が窺える。

新たに始めたい活動が「ある」、または「今までの活動を継続」と回答した人に、その活動の内容を聴いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が69.8%で最も高く、「ボランティア活動」と「文化活動をする・伝統文化などを観る」(各22.4%)、「語学(英語等)」(20.4%)がそれぞれ2割から2割強で並んでいる。

新たに始めたい活動が「ない」と回答した、全体の7割台半ばを占める人たちに、どのようなきっかけがあれば初めてみようと思うか聴いたところ、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(9.7%)、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.0%)「外国人との交流」(7.0%)がそれぞれ1割弱となっている。一方、「始めようとは思わない」が7割強を占めて多くなっている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、間近に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、あらゆる年代の区民の興味や関心を引き出すようなイベントの開催や情報の発信など、区の取り組みを一層促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策を展開していくことが必要であろう。

(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続すべき」が4割台半ばで主流

足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度(高齢者免除制度)については、34.9%が何らかの制度改正を望んでいるものの、「現行のまま継続すべき」が43.8%で、これまでと同様に、最も高くなっている。

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を知っている人が半数近く

足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が今回46.6%と、前回より2.8ポイント増加して、ピークだった平成28年調査の47.6%に近づいているが、依然として地域や性・年代で差が大きい。

なお、「知っていて、活動を実践している」区民は、一部の地域と性・年代層で1割前後とやや高めながら、全体では最近4年間ともに5.0%以下となっている。また、今回も前回までと同様、今後の参加意向が各項目にわたって総じて低めなのを踏まえると、これまで以上に、この取り組みへの認知と理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが必要である。

(2) 「花のビュー坊プレート」「ビュー坊のガーデンピック」の認知状況は3割程度

『花のビュー坊プレート』と『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況については、「すでに使用している」は2.0%と0.9%で、ともに極めて少数のままで、【知っている】（「すでに使用している」＋「見たことがあり、名称なども知っている」「見たことはあるが、名称などは知らなかった」＋「名称などは知っているが、見たことはない」）でも、31.1%と28.6%でともに3割前後にとどまり、区民への認知度は依然として低いままとなっている。

(3) 治安が改善していることを「知っている」が4割弱

足立区内の刑法犯認知件数がピーク時から1万件以上減少していることを「知っている」人は38.4%と4割弱で、同じ設問文であった前回と比較すると、2.4ポイント増加している。（設問文に一部変更があったので、平成29年以前との経年比較は行っていない）

(4) 居住地域の治安状況が「良い」と感じている人は58.3%で、平成23年以降最も高い

居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が今回58.3%と、前回の53.4%を4.9ポイント上回り、直近3年間は53～54%レベルで安定的に推移していた状況を更新して、区民の体感治安は一定の良好レベルから更に向上した様子が窺える。しかし、治安状況に対する評価には地域差がみられるほか、20代の男女や50代女性では【悪い】との評価も4割前後と多めで、今後も、地域や性別、年代にかかわらずすべての区民が安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいく必要がある。

治安が【良い】と評価した人のその理由としては、過去6年間の調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が48.0%で最も高いが、6年続けて漸減傾向にあり、代わりに次点の「防犯カメラが増えたことで、安心感がるから」が3割台半ばまで伸びている。

また、治安対策として区に力を入れてほしいことについても、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が今回56.0%と、平成25年以降続けてトップを維持しており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高い。以下「安全に配慮した道路、公園の整備」と「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」もともに4割前後で続き、これまで同様高くなっている。

一方、治安が【悪い】と感じる人のその理由では、今回も「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が50.4%で突出しているが、前回の56.9%と比べると6.5ポイント減少し、2年続けての減少となっている。

前述したように、居住地域の治安状況が【良い】と評価する区民は6割近くまで達して、治安改善への区の取り組みは着実に成果をあげていると考えられるが、治安が【悪い】という人も26.4%と2割台半ばみられ、20代の男女や50代女性を中核に、依然として悪いと評価されている面もある。

(5) 今後の課題

今後も引き続き足立区を安心安全な街にしていくために、防犯カメラや街路灯の設置促進などの取り組みに力を入れていくとともに、治安向上に資する施策などを通じて、区民の協力も得ながら官民が一緒に力を携えて、足立区を安心安全な街に協創していくことが重要である。

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば

環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も86.3%と最も高く、平成23年以降各年僅かな増減はあるものの、8割台半ばで推移しており、「ごみの分別」が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も今回56.5%で、ここ数年5割を超えて次点となっているが、今回3位の「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は今回50.3%で、前回の45.8%より4.5ポイント増加しているものの、平成23年以降のここ9年間の経年でみると漸減傾向にある。

(2) 9割弱の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知者が心がけていることでは「残さず食べる」が7割台半ば

前回から聴取している「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が87.4%で、前回の76.8%より10.6ポイント増加して、9割弱に達しており、前は目立っていた性・年代別の認知率の格差も小さくなる傾向がみられ、「食品ロス」という言葉が区民に浸透してきている様子がみられる。なお、知っていると回答した人に“食品ロス削減のために心がけていること”を聴いた結果は、「残さず食べるようにしている」が75.7%で最も高く、「外出時に食べられる分だけを注文する」が57.5%で続き、これらの結果に、前回からの変動はほとんどみられず、項目ごとの性・年代別の大きな格差もみられない。

(3) この1年間に参加した活動と今後の参加意向として、「区が主催する各種のイベントや催し物」が2割程度で最多

この1年間に参加した活動をみると、具体的な活動内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も17.9%で最も高く、これに「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(15.9%)と「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(13.7%)がともに1割台半ばの僅差で並んで続き上位となっている。一方、「特に参加していない」は今回45.5%と、前回より1.8ポイント増加して、4割台半ばとなっている。

なお、今後の活動への参加意向をみても、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(21.3%)が2割強で最も高く、これに「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(17.6%)が2割弱で続いているものの、「特になし」(34.3%)と「無回答」(16.9%)が合わせて半数以上を占めるなど、この1年間に参加した活動の結果とほぼ同様の回答傾向が示されている。

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

(1) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知っている」は3割弱で、「知らない（初めて聞いた）」が7割弱

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回29.2%で、前回の平成30年調査の28.2%とほとんど変わらず、平成25年以降、各年3割前後で推移して横ばい状態が続いている。【知っている】は、地域別では第4地域と第13地域でともに3割台半ばとやや高い一方、第6地域では2割強と低めで、性・年代別では男女ともに高齢層ほど高くなる傾向がみられるなど、地域や年代によって認知度に差がみられる。

(2) 「地域包括支援センター」を「知っている」は5割台半ば

「地域包括支援センター」の認知状況については、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）が今回56.3%で、前回の53.6%から2.7ポイント増加して、経年でみるとここ数年の漸増傾向を維持している。

(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は2割弱

高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回18.6%と、前回の17.5%より微増しているものの、経年では平成25年以降各年2割弱で横ばい状態にある。性・年代別でみると、【協力したい】が2割を超えているのは、男性の60代、70歳以上と女性の50代、60代、70歳以上の計5年代層のみで、男性の30代や女性の30代と40代では「協力したいが、時間などに余裕がない」という回答が、それぞれ4割台半ばを占めて多くなっている。

(4) 協力意向がある活動内容は「ちょっとした気づかいの活動」が5割強、「調査する活動」が4割強

協力意向のある人では、その活動内容として、これまで同様「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が最も高いが、今回は53.0%と前回(56.2%)より3.2ポイント減少しており、次点の「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」は今回41.2%で、前回(40.8%)とほぼ同率となっている。

(5) 「成年後見制度」を「知っている」は6割弱

今回聴取した「成年後見制度」の認知状況については、【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が58.7%で6割弱になっており、その認知度は、男性の60代と女性の50代でともに7割弱と高く、男性40代と女性60代もともに6割台半ばでやや高い一方、男女20代ではともに3割台にとどまり、その認知率には年代差がみられる結果となっている。

(6) 今後の課題

地域包括支援センターの認知度は、漸増傾向を維持して5割台半ばに達しており、成年後見制度の認知度も6割弱あるものの、孤立ゼロプロジェクトの認知度は、最近3年間は3割に届かず伸びはみられず、高齢者の孤立防止・見守り活動への協力意向も、平成25年以降2割弱で推移してあまり変化はみられない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、区民の事業に対する認知度の向上に継続的に強く取り組むとともに、活動への積極的な参加を促進していくことに資する環境の整備や参加へのハードルを下げる工夫などが必要である。

10 協働・協創

(1) 「協創」の認知度は少しずつ増加

「協創」について3年目の聴取となる今回、「知っている」は3.7%で、これに「聞いたことはある」(11.4%)を合わせた【知っている】は15.2%で、前回(13.2%)より2.0ポイント増加している。一方、「知らない」は今回81.7%で、こちらも前回(84.3%)からは微減しており、「協創」という言葉・内容についての区民の認知度は少しずつではあるが増加している。今後も引き続き、この考え方について広く区民の周知を図っていくことが必要である。

(2) 「関心はあるが、特に活動していない」が6割台半ば

全体の約15%に相当する「協創」を知っていると回答した人の協働・協創の実践状況をみると、今回は、「すでに、活動を実践している」が23.7%で前回(32.8%)より9.1ポイント減、「関心はあるが、特に活動していない」が64.4%で前回(55.2%)より9.2ポイント増、「関心がない」が11.9%で前回(10.3%)とほぼ同率となっており、“協働・協創に関心あり”の人の割合(88.1%)は前回(88.0%)と変わらないものの、活動を実践している人は減少しており、協働・協創に関する活動のハードルが高く思われているのか検証する必要がある。

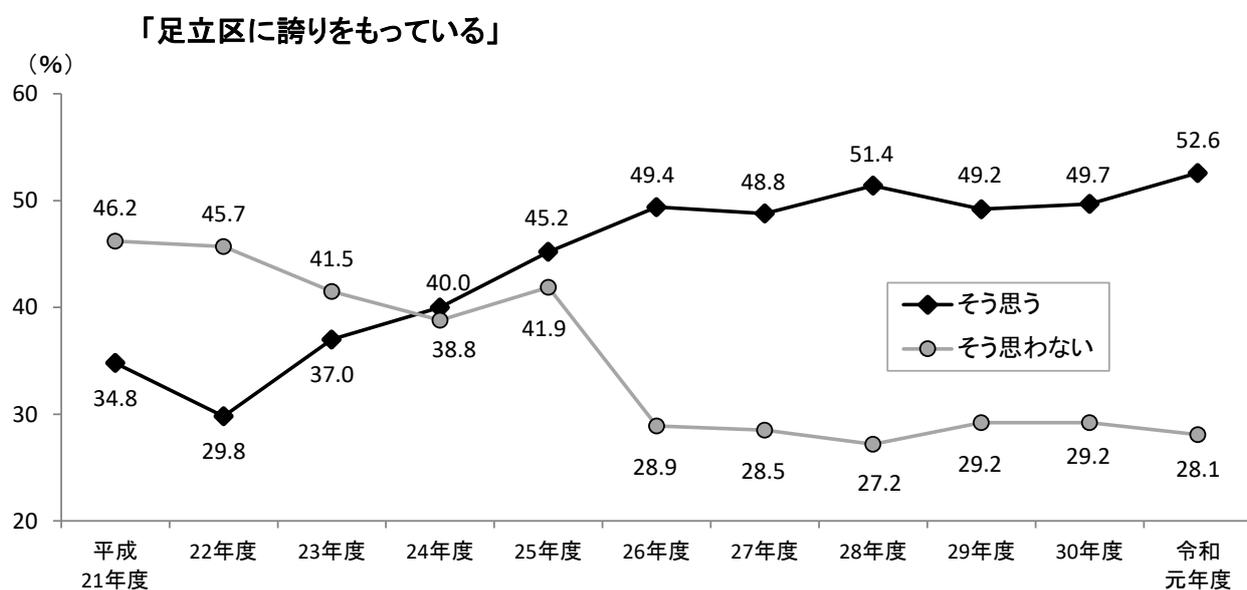
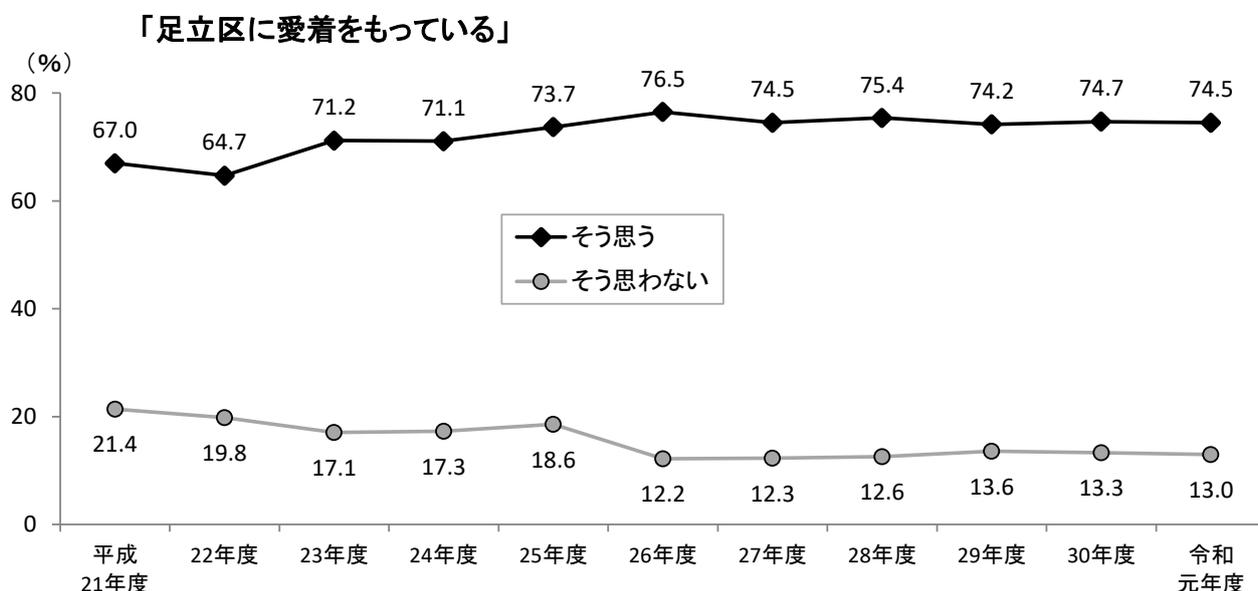
(3) 協働や協創により事業が進んでいると感じている人が初めて2割を超える

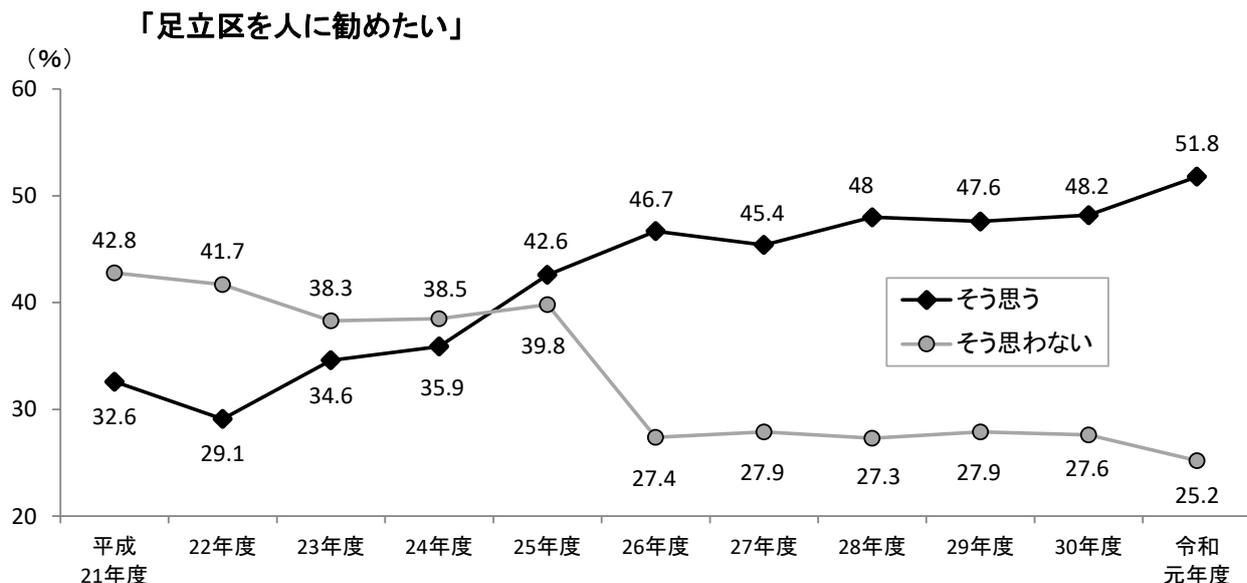
「協働・協創による事業が進んでいると思うか」については、今回、【そう思う】(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が22.1%と、前回(16.5%)より5.6ポイント増加して、初めて2割を超えて、【そう思わない】(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)の17.9%を上回って、【そう思う】という人の方が多くなっている。ただし、「わからない」という回答も54.8%で依然として5割台半ばと多いことから、協働・協創による事業の内容等を、「わからない」と答えた区民へ具体的に示して可視化することにより、認知を高めていくことが必要である。

11 区の取り組み

(1) 「足立区に愛着をもっている」と「足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する」がともに7割台半ば

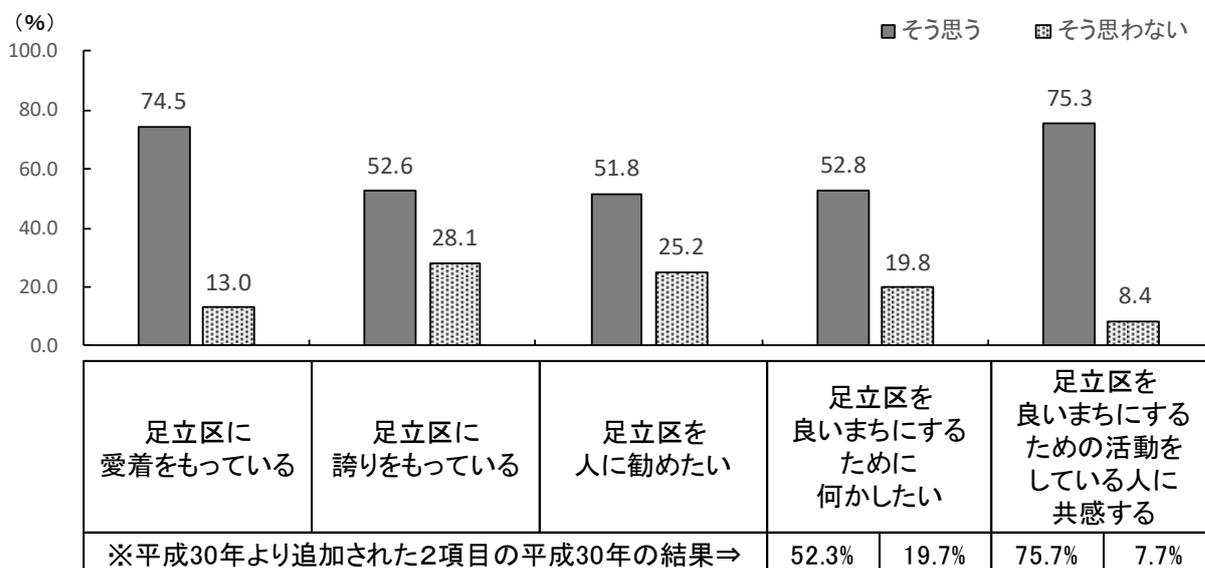
平成21年調査から今回の令和元年調査まで11年に亘って経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は74.5%、〈足立区に誇りをもっている〉は52.6%、〈足立区を人に勧めたい〉は51.8%となっている。今回は、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉の2項目が比率を伸ばして、それぞれ初めて半数を超えた上に、〈足立区に愛着をもっている〉も7割台半ばの比率を維持しており、区に対する愛着が、区民に広く根付いてきて、さらに醸成されていることを示す結果となっている。





また、前回の平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目も、【**そう思う**】がそれぞれ52.8%と75.3%で、前年と同じレベル（52.3%と75.7%）にあり、前述の3項目に並ぶ高い水準となっている。さらに、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思っている人は、男性では50代を、女性では40代を筆頭にしながらも、前回同様、男女ともそれぞれ大きな年代差はみられていない。これらの結果から、“愛着のある足立区をさらに誇りを持てる良いまちにするために何かしたい”と考えている区民が半数以上に達していることは、これまでの区の様々な取り組みと区民や様々な団体、民間事業者の活動が相乗効果を発揮し、一定以上の成果を示している結果の反映ととらえることが出来よう。

回答者数(1,590)



前回から追加された項目のひとつである〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉、および〈区政満足度〉の5項目との関係を、下記のクロス集計表で確認すると、これらの5項目で【**そう思う**】と回答している人では、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ多くなっていることがわかる。中でも、〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の3項目では、いずれも7割前後と高い水準に達していることから、今後も引き続き、区民が“人に勧めたい”と思う、“誇りがもてる”ような区にしていくことで、足立区のために活動したいと考える人がさらに増えていくものと推察される。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
全 体		1590	52.8	19.8
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1185	63.4	16.0
	そう思わない(計)	207	27.1	54.6
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	837	69.7	12.5
	そう思わない(計)	446	41.7	41.3
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	823	71.9	14.2
	そう思わない(計)	400	39.8	42.0
足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	そう思う(計)	1198	67.5	15.5
	そう思わない(計)	133	12.8	78.9
区政満足度	満足(計)	988	62.2	16.7
	不満(計)	346	43.1	32.1

(%)

※ 濃いグレーに白字：全体に比べて10ポイント以上高い

※ 薄いグレーに黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

(2) 区政に対する満足層は6割強で、2割強の満足でない層を大きく上回る

地域の暮らしやすさへの評価や定住意向については、すでに一定のレベルに達して、今回も安定的に推移しており、区政全体に対する満足度も【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が62.1%と、現行と同じ聴取方法となった平成25年以降最高だった平成29年（61.5%）を僅かに上回る高い評価を得ている。

なお、今回調査においても、平成28年以降の3年間と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は299頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が平均値より低い”分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」であるとの結果は、「都市開発」がこのゾーンから抜けたのを除くと、平成28年から平成30年の最近3年間とほとんど変わっていない。

しかし、平成29年以降の3年間は、多くの分野において【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成28年以前の調査結果を上回っており、「子育て支援」「学校教育対策」「高齢者支援」「低所得者対策」「資源環境対策」「防災対策」「行政改革」などの満足度の高まりが、最近3年間の区政全体への評価の向上につながっていると思われる。

また、区政全体に対する満足度と、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」「足立区を良いまちにするために何かしたい」といった区への思いとの間には正の相関も認められる。

(3) 今後の課題

今後も、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することによって、区民の区政全体への満足度の向上を継続し、足立区を、すべての区民が愛着と誇りをもって、より良いまちにするために何かしたいと思える「まち」に発展させていくことが求められよう。

区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9
70代以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0
70代以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7
70代以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2
70代以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6
70代以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2
70代以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成 30年	令和 元年
	52.3	52.8

(%)

男性	平成 30年	令和 元年
20代	45.8	39.1
30代	52.3	56.1
40代	60.5	57.5
50代	57.4	58.5
60代	46.5	47.9
70代以上	53.8	56.9

女性	平成 30年	令和 元年
20代	41.6	39.4
30代	54.5	51.7
40代	52.5	63.7
50代	52.5	60.4
60代	59.4	45.8
70代以上	48.5	45.1

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成 30年	令和 元年
	75.7	75.3

(%)

男性	平成 30年	令和 元年
20代	64.4	59.4
30代	76.7	79.3
40代	76.7	80.0
50代	78.3	80.3
60代	75.2	72.7
70代以上	74.5	72.9

女性	平成 30年	令和 元年
20代	61.0	66.7
30代	79.1	71.2
40代	80.3	80.3
50代	79.0	83.2
60代	82.5	75.0
70代以上	71.7	72.8

区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年
満足	53.2	53.3	57.7	61.5	60.0	62.1
不満足	27.6	27.4	25.6	24.0	23.9	21.8

(%)

1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	4.7	15.0	2.5	0.7	4.3
どちらかといえば暮らしやすい	2.6	32.6	10.7	1.1	7.7
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	5.4	4.5	1.0	3.1
暮らしにくい	0.2	0.4	0.6	0.6	0.1

2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住み続けたい	4.6	19.8	4.5	0.5	6.4
当分は住み続けたい	2.3	25.5	8.2	1.1	5.8
区外に転出したい	0.4	2.7	2.4	0.8	0.9
わからない	0.6	5.6	3.2	0.9	2.4

3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
十分に得られている	1.3	1.9	0.3	0.1	0.4
ある程度得られている	5.8	40.5	11.4	1.1	9.1
得られないことが多い	0.1	4.4	2.7	0.9	1.9
まったく得られない	0.0	0.6	0.5	0.3	0.4
必要と思ったことがない	0.3	4.3	2.5	0.4	1.4
区の情報に関心がない	0.4	1.8	0.6	0.6	0.8

4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	2.6	4.7	0.4	0.1	1.4
どちらかといえば良い	3.8	30.1	6.6	0.9	7.6
どちらかといえば悪い	0.8	11.4	6.9	0.9	2.1
悪い	0.2	1.4	1.4	0.9	0.4
わからない	0.4	5.8	2.8	0.4	3.4

